

## ●小学生の部

日本動物福祉協会一等賞 三浦 かな みうら かな  
「やせたキツネ」

「うわ。ガリガリ」

まさかあれが毎日見ていたキツネ君たちだと気付くのにしばらくかかった。

私たちが毎日のように通るとうげでは、熊鹿キツネ等が時々顔を出す。動物を全く見かけない日はない。たまに電話をするために停車して発進しようとする時、なぜか数匹のキツネに囲まれていたことが何度かあった。発進すると残念そうな顔。

「きっと観光客がエサをあげているんだね」と家族と話していた。

コロナの自しゅく生活があけて久しぶりにとうげを通った時に見たのがそのガリガリにやせ細ったキツネ君。そして、ゴミの落ちていないきれいな道路。

自しゅくが徐々にとけて車が通るようになると、またゴミが数メートルおきに散らばりキツネ君がそれをあさっているのを見かけるようになった。1週間でキツネが2匹ひかれていて、その近くには、散乱ゴミがあった。観光客のエサだと思っていたけれど、

「もしかしたらキツネ君達はポイ捨てゴミも食べているのかもね。」

母が言った。そういえば、人間の味を覚えてしまったせいか熊も今までこなかった所まで来てしまっている。

人間のマナー違反のせいで生態系がくずれて行動が変化して、動物がぎせいになっている。とうげは車が通って危ないから街でゴミ拾いをしてみたけど、拾っても拾ってもまたゴミが落ちている。特に、タバコの吸いがら。小さくて目立たないからと捨てるのかもしれないけど、鳥がエサと間違えてのどをつまらせるかもしれない。

大人にそのことを話したら

「ゴミ拾いをしてえらいね。」

と言われた。

でも、そうじゃない。ゴミを捨てる人がいなくなれば、ゴミ拾いはしなくて良くなる。

私は、北海道の自然も動物も大好き。だけどその好きな気持ちはエサをあげるのではなく、生態系をこわさないことで示そうと思う。自然と動物を守るため、ゴミを捨てないこと、また、エキノコックスもあるから、観光客には、食べ物をやらないことを知らせる活動を始めた。しばらくはガリガリのままかもしれないけど、きれいな自然にもどったら自分でエサをとれるようになるから、それまで一緒にがんばろうね。